

猿新聞

編集責任者
山村 準
tel:0595-63-1725
Email
jyun.y@asint.jp
名張鳥獣害問題連絡会
発行部数
【全戸回覧】
錦生地区：100部
赤目地区：150部
箕曲地区：70部
ひなち地区：220部
つつじが丘：430部
【全戸配布】
国津地区：380部
市民センター：90部
(9地区)
名張市議会：20部
名張市役所：30部

人間と野生鳥獣が共に 笑顔で暮らすために

「人と動物が笑顔でいるために」（広報なほり）
ペットとして飼われている犬や猫、そして自然界で生きていく鳥獣、そして私たち人間も、それぞれ命を授かり生きていくのです。広報なほり「ひだまりにやんこ」代表・高松 智子氏は、いみじくもいっています。

「人間の身勝手な行動で不幸な動物を増やさないことが重要」と。まさにその通りで、近年、農・林・水産業に大きな被害を及ぼしている自然界の野生鳥獣にとっても同じこと、関わり方の基本理念は変わるものではありません。

ヨーロッパやアメリカでは、早くから大型獣の絶滅が見られましたが、日本では江戸時代までは一種の絶滅もなく共存が図られていました。これは、決して楽々と共存できていたわけではなく、先人はその対策にもすごい努力やお金を使っていたことが、文献や今も残るシシ垣などの遺構からも推察することが出来ます。江戸時代、狩猟するのは藩主クラスのみで、銃の所持も厳しく管理されていて、百姓は農業被害を防ぐための農具として銃の保持を許されていたが、狩猟は表向きには許されていなかった

です。1905年にはすでにオオカミが絶滅し、トキも絶滅が危惧されています。北陸、東北地方では、大正時代までにイノシシとシカは絶滅し、サルもかなり数を減らした時代がありました。一方、九州・中国・四国・関西地方などでは、個体数の減少はありましたが、北陸・東北地方のように絶滅までには至っていません。生き残った動物たちは、保護政策などによって徐々に数を増やし、現在では、温暖化の影響もあり数を増やし、ながら生息域が北上を

つづけています。近年、青森県内でもニホンジカが目撃されるようになり、東北でもあつても太平洋側の積雪が少ない地域では、イノシシの姿を目撃されています。

野生動物は互いに食物連鎖で繋がりが、自然生態系のバランスを保ち生存しています。強力な捕食者であるオオカミの絶滅など、現在の日本の生態系のバ

ランスは崩れ野生動物の増加を抑える機能を失っています。これまでは、野生動物による農作物の被害をどう防ぐか、といったことに重点が置かれ、生態系の保全や生物多様性の重要性には目を向けられてきませんでした。

北陸、東北地方では、大正時代までにイノシシとシカは絶滅し、サルもかなり数を減らした時代がありました。一方、九州・中国・四国・関西地方などでは、個体数の減少はありましたが、北陸・東北地方のように絶滅までには至っていません。生き残った動物たちは、保護政策などによって徐々に数を増やし、現在では、温暖化の影響もあり数を増やし、ながら生息域が北上を

やその周辺に人の手が入らなくなり里山は荒廃して全ての機能を失っています。加えて、中山間地域の高齢化による活動衰退が鳥獣の農地への侵入阻止を困難にしています。里山の荒廃が鳥獣害に拍車をかけています。

今後、獣害最前線である中山間地域では、一層の高齢化や更なる人口減少が予想され、野生動物の棲み分け共存を図るのが一層困難になってくるものと思われ

ます。在来の自然環境や野生動物に深刻な悪影響を及ぼす外来生物が近年問題になっています。我が国に生息する外国起源の生物の数は分かっていて、約2000種ともいわれ、これらは、意図的、非意図的の違いはありますが、人間の活動に伴って日本に入ってきているという点で共通しています。特定外来種に指定されているアライグマもペットブームからの負の遺産です。

今後これらを解決するためには、中山間農業地域、林業地域をどのように変えていくかが21世紀の課題です。100年前まで日本の自然が持っていた環境

機能を回復させるという長い目で見るのが、最もコストのかからないリスクの低い共存への近道だと考えます。日本は、世界の先進国の中では唯一、大型の野生動物が人のそばで暮らす国です。近年、シカなど増えすぎた野生動物は人間の敵のように取り上げられていますが、昔のように野生動物と人間の距離が適正に保たれていた時代には、このような問題は少なかったのです。

また、シカもイノシシもサルも、私たち人間が生きていくための自然環境を構成する重要な一員です。地球は人類のためにだけあるのではなく全ての生物と共存すべきです。生命あるものは全てが生活

環境を保持する上で欠くことのできない役割を果たしているのです。野生鳥獣との共存は、農山村だけにとどめず、国民全体の課題として、国民全体の知恵を結集し取り組まなければならない重要な問題です。

中山間地域は、傾斜地が多く、ほ場の大区画化や大型農機の導入もままならず、また、山林に隣接することから、鳥獣被害を受けやすい環境にあります。農地を維持する

チヨット一服
動物の危険予知能力

私たち人類は何百年も前から、鳥や動物の行動に基づいて、天候異変を予測して地震とナマズの話は有名です。ナマズやネズミなどが不穏な動きを見せるのは地震が起る兆候だという話は、今も、まことしやかに伝えられています。これはある種の動物だけが持つ神秘的な予知能力なのです。犬や猫たちは普段の世界とは「なにか違う!」ということに敏感に察知しているのです。火事の前には家にネズミがいなくなるという話は昔からいわれています。

現代では犬をペットとして、心の癒しにしていますが、太古の昔では人間は犬の持つ予知能力を利用し身に振りかかる危険をあらかじめ察知し

古くは、日本では幅広い動物の行動を信じられてきました。今回の台風19号の影響で被害が相次いだ利根川流域で、大量のイノシシの大群が移動するのを多数目撃されています。イノシシは洪水の発生を察知したのかも知れません。ネズミは悪天候を予知できるとされていて、関東大震災では、ネズミの異常行動が多く目撃されています。

なぜ人間には予知能力がないのでしょうか。人工知能という言葉が聞かれない日はないほど、人工知能に関する技術には注目が集まっていますが、人工知能で動物のような危険予知能力に迫ることは遠い先のことでしょう。信じるも信じないもあなたの自由ですが、猫や犬の行動を観察しながら危険を察知し

中山間地域農業事情

鳥獣害は中山間地域を中心に依然として拡大しています。農家は、生産額、農家数、農地面積など、全国の約4割を占めていた中山間地域は、人口は都市に流出し、人口減少、高齢化、担い手不足の厳しい状況にあり、中山間地域の主要産業である農林業は衰退し、生まれ育った地域に誇りと自信を失っています。

中山間地域は、傾斜地が多く、ほ場の大区画化や大型農機の導入もままならず、また、山林に隣接することから、鳥獣被害を受けやすい環境にあります。農地を維持する

中山間地域では、採算を度外視し、先祖代々

要産業である農林業は衰退し、生まれ育った地域に誇りと自信を失っています。

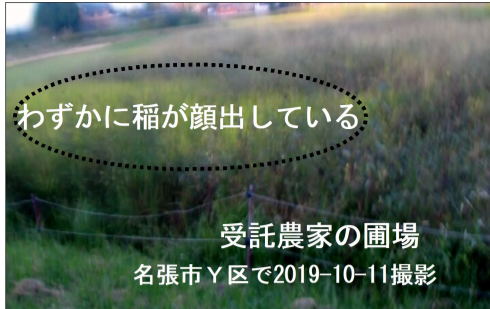
中山間地域は、傾斜地が多く、ほ場の大区画化や大型農機の導入もままならず、また、山林に隣接することから、鳥獣被害を受けやすい環境にあります。農地を維持する

農地を維持する

中山間地域では、傾斜地が多く、ほ場の大区画化や大型農機の導入もままならず、また、山林に隣接することから、鳥獣被害を受けやすい環境にあります。農地を維持する

ず、カメムシやイナゴなど害虫の発生や雑草の種子の飛散など、周囲の迷惑になったり、景観の悪化や周囲の農地へ悪影響を与え、集落の環境破壊につながっている耕作放棄地と何ら変わらない状態状態。

このような田圃は集落にパッチワーク的に点在し、シカやイノシシなどの野生動物の餌場となり周囲の農作物被害も起こっています。現状のままでは、中



の土地保全のための農業となっています。中山間地域では、農地を維持することは、非常に困難で、所有農地を委託する農家が増えています。

これも時代の流れで、致し方ないことですが、受託就農者の一部では、農業のノウハウや農家のルールを理解していないというところが問題となっており、在来農家との間の信頼関係の欠如が見られます。米づくりは雑草との闘いですが、受託農家では、田植え後草刈りは行わ

鳥獣被害対策講習会開催のご案内

農山村での鳥獣害は、営農意欲の減退や、耕作放棄地の増加などをもち、数字に現れる以上に深刻な影響を及ぼしています。鳥獣害は決して農作物に限った話ではなく、列車・自動車との衝突事故や、偶発的な人身事故など、市民生活に密着した問題にも拡大しつつあり、今後は、一般の市民生活に及ぶことが予想されることから、一般市民のニーズに沿ったグローバルな観点から獣害対策を考える必要があります。

つきましては、つつじが丘市民センターをお借りして、下記の通り講習会開催いたします。ご多忙とは存じますが是非ご出席賜りますようご案内申し上げます。

—記—

開催日時：令和元年11月23日（土祝日）午後7時～9時
 開催場所：つつじが丘市民センター多目的ホール（TEL68-1236）
 挨拶 つつじが丘自治連合会 会長 小引 福夫氏
 名張市産業部 部長 杉本 一徳氏

講演内容

- ①名張A群の現状と対策
 名張鳥獣害問題連絡会 会員 古川 高志
- ②みんなで取り組む獣害対策
 三重県中央農業改良普及センター
 主査 木村 宏氏
 三重県伊賀地域農業改良普及センター
 主幹 市川 昌樹氏
- ③獣害対策の現況とサルドコネット
 名張市農林資源室 仙頭 賢氏
- ④質疑応答
 閉会挨拶 名張鳥獣害問題連絡会 会長 田村 修市

つつじが丘自治連合会
 名張鳥獣害問題連絡会
 三重県伊賀地域農業改良普及センター
 三重県伊中央域農業改良普及センター

猿生態アラカルト

山間地域の農業の衰退が加速し、農村社会の維持そのものが困難となる可能性があります。

ニホンザルは、18歳くらいから高齢化が始まり、見るからに老いたという感じになります。メスでは子を産まなくなり、そして20歳くらいまでにほとんどが姿を消していきます。死期を知ると、死体を見せられないように、山に隠れて死ぬといいますが、彼らは死体を人目にさらすことは殆どありません。人目のつかないところで静かに死

を迎え土に返っているものと思われれます。ニホンザルの社会では、オスとメスでは一生の過ごし方が大きく違います。メスは群れから離れることはあまりなく、生まれた群れで一生を送ります。しかし、オスは、思春期である3才から5才になると、ほとんどのものが群れを離れていきます。これが結果的に近親交配を避ける重要な意味を持っているのです。

ハナレザルは行動圏が決まっておらず、入る群れを探してか100キロも移動した事例があります。このため、

群れが生息していない地域にハナレザルが出没することがあります。昨年からは今年にかけて大騒ぎしたつつじが丘のハナレザルどこに行っただけでしょうか。

サル出沒状況

名張A群の状況 (古川 高志さん報告)

最近のA群は主に、ひなち湖の368号線沿いの上比奈知トンネルから赤岩大橋間の君ヶ野公園・君ヶ野橋・梨の木橋・登力橋方面に行くのが多い。何故ならこの付近に黒い実の成る木や山栗、アケビなどが群生していて毎年

それに集中しています。今の時期は交尾期で、今まで見た事のない大きなオスを群れの中で見かけることが多くあります。ハナレザルが交尾のために来ているのです。この時期のサルはオス、メス共気性が荒くなっているのので注意して下さい。

メスは一度に多くのオスと交尾するので、来年5月頃生まれる子供の父親は、どのサルかはわかりません。捕獲した猿のDNAを調査すれば何処の群れの血があるのかわかりませんが残念ながら現在では実施されていないのです。

